

テーマ展「“写し”—日本美術を読み解くキーワード—」展示作品リスト

番号	指定	名称	作者	数量	時代	所蔵
<b>書画～イメージの継承と展開～</b>						
1		倣十二大家画帖	中林竹洞	1帖	江戸時代 文化14年(1817)	彦根城博物館(個人寄贈資料)
2		花卉図	佐竹永海	2幅の内1幅	江戸時代後期	個人
3		出山积迦図	狩野永祥	1幅	江戸時代～明治時代初期	彦根城博物館(青木巖氏寄贈資料)
4		貫名菘翁筆 王羲之「蘭亭序」臨書幅	日下部鳴鶴	1幅	明治時代～大正時代	彦根城博物館(日下部暘氏寄贈資料)
5		風俗図	柴田是真	1幅	江戸時代後期～明治時代初期	個人
6		摺針暁景図	佐竹永海	1幅	江戸時代 嘉永元年(1848)	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
参考		近江名所図会		4冊の内1冊	江戸時代 文化11年(1814)	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
7		源氏物語絵巻模本	島戸伊川	1巻	明治時代～大正時代	彦根城博物館(島戸繁氏寄贈資料)
<b>能面～由緒ある型を写す～</b>						
8		能面 般若	井関家重	1面	江戸時代初期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
9		能面 般若		1面	江戸時代中期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
10		能面 獅子口	友水庸久	1面	江戸時代 元文元年(1736)	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
11		能面 獅子口		1面	江戸時代中期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
12		能面 真角	甫閑満猶	1面	江戸時代 享保12年(1727)	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
13		能面 笑尉	洞水満昆	1面	江戸時代 宝永5年(1708)	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
14		能面切型 本面童子		12枚	江戸時代後期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)

武器武具～祖先が用いた形に倣う～						
15	県指定	朱漆塗紅糸威縫延腰取二枚胴具足		1 領	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
16		朱漆塗蛭巻鞘大小拵		1 腰	江戸時代前期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
参考		朱漆塗蛭巻鞘大小拵		1 腰	桃山時代～江戸時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
17		立浪形張懸兜図（御武器并御道具類絵図の内）		1 枚	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
参考	市指定	立浪形張懸兜		1 頭	桃山時代～江戸時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
茶道具～意匠を受け継ぐ～						
18		古瀬戸肩衝茶入 銘 夏山		1 口	室町時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
19		黒漆塗利休棗		1 合	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
20		若狭塗利休棗		1 合	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
21		楽焼 火舎蓋置		1 箇	江戸時代後期～明治時代	大久保忠直氏（埋木舎大久保家伝来資料）
参考		楽焼 火舎蓋置（楽焼七種蓋置の内）	井伊直弼	1 箇	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
22		朱漆塗木彫窓花卉文茶箱		1 合	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
やきもの～形と技を写す～						
23		湖東焼 染付唐人物花鳥捻文煎茶碗（関東大震災罹災品）		1 口	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
参考		染付唐人物花鳥捻文煎茶碗		5 口の内 1 口	中国・清時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
24		湖東焼 赤絵金彩山水図酒盃	自然斎	1 口	江戸時代後期	個人
参考		九谷焼 赤絵金彩龍図茶心壺		1 合	江戸時代後期	個人
25		湖東焼 青手古九谷写鳳凰文平鉢		1 枚	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
26		青磁六角釣灯籠		1 基	江戸時代	個人

## 写真解説

### 1 倣十二大家画帖 中林竹洞筆 1帖 (作品リストNO. 1)

縦 27.5cm 横 17.0cm

江戸時代 文化14年 (1817)

当館蔵 (個人寄贈資料)

名古屋出身の文人画家・中林竹洞なかばやしちくどう (1776～1853) が、中国の12人の著名な画家それぞれの画法に倣って描いた山水図を貼り込んだ画帖。各図に、画家の名前と共にそれぞれの画法に倣ったことを示す、「倣」「模」「擬」「法」などの文字が記されています。本図は、10世紀後半に活躍した山水画家で、後に文人画の祖として尊ばれた董源とうげんに倣ったもの。平明湿潤な董源画の特長である披麻皴ひましゆん (麻糸をほどいたような筆致で山や岩の襞を立体的に表す描法) を山や岩に用いて、潤いのある山水図を描き出しています。

江戸時代中期以降に定着した日本の文人画では、本作のような、舶載された中国の文人画や、著名画家の描法を解説した版本の図様や筆法に倣った、数多くの中国画的「写し」が制作されました。本作を含めたこれらの作例からは、中国文化に対する強い憧れが見て取れます。



1 倣十二大家画帖 中林竹洞筆  
当館蔵 (個人寄贈資料)

### 2 風俗図 柴田是真筆 1幅 (作品リストNO. 5)

縦 103.6cm 横 41.0cm

江戸時代後期～明治時代初期

個人蔵

近世初期風俗画の傑作として知られる国宝・彦根屏風 (当館蔵) が後世に与えた影響は大きく、近世から現代に到るまで、彦根屏風を写した作品やアレンジした作品などが数多く確認されています。本作品もそのようなアレンジ作品の1つで、彦根屏風の第3・4扇の4人の人物と、第5扇の煙草盆と煙管を抜き出し、縦長の画面にあわせて配置し直したものです。人物のポーズや道具の形は原本である彦根屏風と同じですが、着物の色や文様、帯、髪型、表情、道具の装飾などの細部は異なります。また、彦根屏風では年嵩としかさに描かれる画面奥の2人と、その手前で右を指さす、本来は幼い禿かむろ (遊女の側近くに控える見習いの少女) は、いずれも年若い人物へと変更されており、鮮やかな色彩も相まって、彦根屏風よりも艶めかしい印象を与えます。

作者の柴田是真しばた ぜしん (1807～1891) は、幕末から明治中期にかけて活躍した蒔絵師まきえしであり絵師。彦根屏風に着想を得た作品を多く手がけています。



【参考】国宝・彦根屏風 (部分:第3～5扇)  
当館蔵



2 風俗図 柴田是真筆  
個人蔵

3 能面 獅子口 友水庸久作 1面 (作品リストNO.10)

面長 20.7cm 面幅 16.7cm 面奥 11.6cm

江戸時代 元文元年 (1736)

当館蔵 (井伊家伝来資料)

4 能面 獅子口 1面 (作品リストNO.11)

面長 20.7cm 面幅 17.0cm 面奥 11.5cm

江戸時代中期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

獅子口は、文殊菩薩が騎乗する霊獣である獅子が牡丹に舞い戯れる演目「石橋」に用いる、獅子を表した面です。

非常によく似たこの2面は、通常の獅子口とは異なる特殊な型の面です。3の獅子口は、面裏の銘から、代々能面制作を家業とする大野出目家7代の友水庸久 (?~1766) が、喜多流の宗家に伝わる「大獅子口」という面を直に写したものであることが分かります。この「大獅子口」は、喜多家が3代將軍徳川家光 (1604~1651) から拝領したと伝える由緒ある面です。一方、4の獅子口は、3の「写し」で、大きさや表情だけでなく、彩色の剥落や傷跡、さらには面裏の彫りや補修跡である布貼までをも精密に写しています。

能面の制作にあたっては、しばしば、本面と称される造形的に優れた面や、特別な由緒のある面の損傷までも再現した、本作のような詳細な「写し」が作られました。このような「写し」が作られた背景には、優れた造形とともに、傷などに象徴される、面のたどった歴史も尊ぶ意識があったのではないかと考えられています。

3 能面 獅子口 友水庸久作 当館蔵



(面表)

(面裏)

4 能面 獅子口 当館蔵



(面表)

(面裏)

5 朱漆塗蛭巻鞘大小拵 1腰 (作品リストNO.16)

総長 (大) 105.0cm (小) 68.7cm

江戸時代前期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家3代当主である直澄 (1625~1676) の所用と伝える大小拵。鞘に薄い金属板を斜めに巻いた蛭巻鞘の形式で、表面に朱漆を塗り、鍔 (鞘の端) には蕨手型の装飾がある金具が嵌められています。

この拵は、鞘や柄、鐔の形に至るまで、直澄の父である2代直孝 (1590~1659) の所用とされる大小拵に倣って作られたと考えられるものです。鍔と縁頭の素材が銀ではなく赤銅で、



5 朱漆塗蛭巻鞘大小拵 (伝井伊直澄所用) 当館蔵



【参考】朱漆塗蛭巻鞘大小拵 (伝井伊直孝所用) 当館蔵

これに井伊家の家紋である橘紋を金象嵌で表す点、鐺に覆輪を設ける点は異なりますが、柄糸の下の鮫皮を朱漆塗とするなど、それ以外の意匠は共通しており、非常によく似た姿となっています。

6 楽焼 火舎蓋置 1箇 (作品リストNO. 21)

総高 6.5cm 径 5.2cm

江戸時代後期～明治時代

大久保忠直氏 (埋木舎大久保家伝来資料)

彦根藩士であった大久保家に伝来した、香炉の形をした楽焼の蓋置。火舎とは香炉のことです。

本作は、その形の特徴から、江戸時代後期の代表的な大名茶人の1人として知られた井伊家13代直弼 (1815～1860) が自作した、楽焼の火舎蓋置 (七種蓋置の内、当館蔵) の「写し」とみられます。また、大久保家伝来であること、いささか拙いともいえる素朴な造形から、直弼の茶の湯の弟子であった大久保小膳によって作られた可能性が高いと考えられます。師の作品を弟子が写した、師である直弼への敬慕の念を感じさせる作品です。



6 楽焼 火舎蓋置  
当館蔵

【参考】楽焼 火舎蓋置 (七種蓋置の内、写真左から4番目)  
井伊直弼作 当館蔵



7 青磁六角釣灯籠 1基 (作品リストNO. 26)

総高 32.0cm

江戸時代後期

個人蔵

六角形の胴に亀甲 繫 と唐草の文様を透かし彫りで施した、青磁製の華やかな釣灯籠。

本来、金属で作られる、露地や庇などに吊す釣灯籠をやきもので作った、いわゆる「金属器写し」の作例です。堅牢な金属で作られる道具を、あえて、やきものという全く異なる素材で再現したという趣向の面白さとともに、複雑な形状を破綻なくまとめ上げた、その技術力の高さが目を引きまします。「写し」の中には、このように意図的に素材を変えることで、オリジナルとは異なる新たな作品を生み出す例もあります。



7 青磁六角釣灯籠 個人蔵